

## タイ便り vol.9

文学研究科日本語日本文学専攻

博士前期課程2年 徳久桃花

配属先に赴任して1年と5ヵ月が経ちました。12月に入ってから、国境地帯におけるタイとカンボジアの軍事衝突が再び発生し、約1か月間バンコクに退避していました。中々安定しない情勢ですが、現在は無事に任地に戻ることができています。

任期も残すところ約1ヵ月。慌ただしさの中にも、どこか名残惜しさを感じながら、日々を過ごしています。

### 【タイの生徒との関わり】

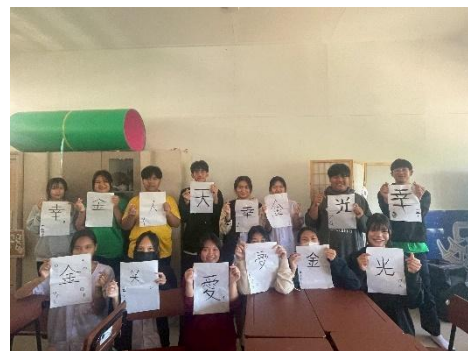
これまでの活動期間を通して、たくさんの生徒と関わってきました。中学生、高校生という多感で難しい時期。そんな彼らと一緒に過ごす中で、私が強く印象に残ったのが、生徒の素直さです。楽しい、つまらないという感情を驚くほどストレートに伝えてきます。

先日、教科書で習った単語を使って「かるたゲーム」をしました。他の学年に比べると静かで、学習モチベーションも全体的に低めの高校1年生のクラス。盛り上がってくれるか不安でしたが、実際にやってみると、札が取れるごとに歓声が上がり、取れなかったら悔しがりと、予想以上にワイワイ楽しんでいました。そんな生徒たちの姿がかわいらしく、教師としても嬉しい瞬間でした。

生徒の反応はととてもわかりやすいため、自分の授業を振り返り、次にどう改善すべきかを考えるきっかけになります。教える立場でありながら、生徒から学ぶことも多く、そんな日々の積み重ねの中で、私自身も少しずつ成長しているように感じています。



かるたゲーム



書道体験

退避期間が明けてから、高校3年生のある男児生徒に再会しました。久しぶりに話してみると、とても日本語が上達していてびっくり！どうやって勉強したのかを尋ねたところ、日本人の動画を見ながらシャドーイングを頑張っているとのこと。地道に努力を重ねていることが言葉の端々から伝わってきて、とても感銘を受けました。彼は、タイの大学の日本語

科への進学を志望しています。

「将来、日本に行って、日本で先生に会いたいです。」

そう言ってくれたことが、いつか叶ったらいいなと思います。

#### 【残りの任期わずかで考えること】

2度目のタイでの年越しを経て、いよいよ帰国モードに突入しました。身辺整理や活動報告書など、やらなければならないことが山積みになりつつあります。1月から3月は校内イベントや受験準備などで授業が無くなることも多いため、あと何回生徒に会えるかなと考えながら、授業準備をしています。

着任当時のことを振り返ると、ほとんどの生徒が日本語学習に対するモチベーションが低い現状に直面し、どのように生徒に働きかけたらよいのか、悩むことばかりでした。試行錯誤をして、失敗も数えきれないほど経験しました。正直なところ、今でも何が正解なのかはよくわからないまま教壇に立っています。

しかし、初めは目も合わなかった生徒が自分から日本語で挨拶してくれるようになったり、いつも授業中に机に伏せていた生徒が、覚えたての日本語とタイ語を織り交ぜて私とコミュニケーションを取ろうとしてくれたりという小さな変化も見えてきました。数字で示せるような成果は得られていませんが、生徒が日本語を話すことに対して少し前向きになってくれたことに、私が活動した意味があったのかなと思います。

残りの活動日数はわずかとなりました。今後、日本語キャンプや日本の中学校、高校とのオンライン交流会を予定しており、これまでで一番忙しい月になりそうです。バタバタと過ぎていく毎日ですが、ひとつひとつのやりとりを大切にしながら、最後まで生徒に向き合いたいと思います。



初日の出（ムック島）



同僚の日本語教師と（著者は中央）